

特 集／公民館報は地域をつなぐ
町政スポット／町議会9月定例会報告、あさひ保育園民営化 ほか
ま ち の 話 題／第31回朝日町ワインまつり、第3回和合りんご
まつり、第27回町民アップル駅伝競走大会 ほか

主役としても、脇役としても重宝される季節の味
採れたてのミョウガを洗う武田常雄さん（白倉）
（9月26日／白倉地内）



広報 あさひまち

2010年10月号
No. 647

特集

公民館報は 地域をつなく

社会のいろいろな場面で「コミュニケーションの希薄化」が見られる昨今、その波は今や朝日町の地域社会にも押し寄せてきています。

今月の特集では、このような時代における公民館報の役割について考えます。

**コミュニケーションの希薄化…ご存知ですか？
自分の住む地域のこと**

地域や職場など社会の様々な場面において、「コミュニケーションの希薄化」が叫ばれる昨今、これに起因する事件や社会問題が都市部を中心に多く発生しています。

しかし、こうした状況は今や都市部だけの現象ではありません。朝日町でも、事件や社会問題とまでには行かないものの、近年特に地域の中で、「行事が少なくなった、簡素化された」「団体旅行がなくなった」「お酒を飲まなくなった」などの声が聞かれるようになり、自分の住む地域について情報を交換する機会が減少しています。このことは、地域の出来事、情報について「知らない」「関

心がない」という人が増えることにもつながることから、郷土愛や地域に対する意識の低下が心配されています。

**仕事の都合で
行事に参加できない…**

こうした状況の背景として第一に考えられるのが「就労形態の変化」です。長年、農業を町の基幹産業に揭げてきた朝日町ですが、産業別就業人口を見ると、年々第1次産業が減少し、第2・3次産業、つまりサラリーマンが増えています。

特にここ10年程度は、昼夜交代制の勤務形態で働く方が増加。そのほか長距離通勤の方や、早朝・夜間、土曜日曜に勤務する方も増え、以前に比べて地域の行事や会合に参加しにくい勤務形態になっています。

**若妻会、婦人会、消防団…
小規模化・簡素化する
地域の団体活動**

第二には、長年地域を支えてきた各団体の小規模化が考えられます。

その一例として、以前はほとんどの地区にあった若妻会はここ10・20年間でほとんど消滅し、地区若妻会の上部組織である町連合若妻会も平成19年度をもって解散しています。最も強固な組織である婦人会についても、町連合婦人会に登録している地区は、町内55地区のうち38地区にとどまり、会員数も平成18年度から今年度にかけてのわずか5年間で226人、約25%減少しています。(H18…920人、H22…694人)

また、地域の青年層の集まりとも言える消防団員も、近年は就労形態の変化などにより減少が続いています。以前に比べて酒席やお酒自体を好まない団員も増え、懇親会などを簡素化する部が増えています。

このほか、昔は活発だったお年寄り同士の「お茶飲み」といった情報交換も、時代の変化とともに最近は



■多くの写真を配置し、村社のお祭りを伝える前田沢公民館報「とびら」(平成22年5月14日号)



前田沢公民館
主事補 成原早弓利さん

平成17年4月から区の公民館報を担当しています。

最初は一人で作れるか不安でしたが、バックナンバーを参考にしながら見よう見まねで作り、早5年半が経過しました。最近のコツをつかんできた反面、紙面にマンネリ感も感じており、新たな企画にもチャレンジしたいと思っています。

前田沢公民館報は発行回数の多さが特徴で、月一回以上のペースで発行しています。編集作業と仕事の多忙な時期が重なり、大変に思う事もありますが、そもそも私はこういう仕事が嫌いじゃないんです…(笑)。発行を楽しみに待っている方々のことを思うとパソコンに向かう元気がわきますね。

あまり見られなくなりました。
その結果、近所に住んでいる人同士でも長い間顔を見ない、人の異動(出生・結婚・死亡・転出入等)を知らない、地域内の行事や出来事にも全く興味が無い、といったように、朝日町での生活も都市化が進み、コミュニケーションの希薄化が進んでいます。一昔前であれば当たり前のように知れ渡っていた基本的な情報でさえも、伝わりにくい時代になっているのです。

地区内の情報の共有に 役立つ公民館報

このような時代において、地区内の情報の共有に役立っているのが、各地区の自治公民館が発行する「公民館報」です。

自治公民館とは、各地域に住む方々の自治活動や生涯学習活動の推進を目的として設置されているもので、各地区が管理・運営を行うもの。朝日町では長年「町づくりは、人づくり」の考え方に基づいて、住民による自治活動の充実に力を注ぎ、昭和30年代後半から盛んに自治公民館の建設を行ってきました。その結果、現在では町内に55ある区のひとつに建物整備されています。

近年の創刊はパソコン等 OA機器の普及による

この55館のうち、今年3月末日現在で公民館報を発行しているのは16館。下の【表】で示す通り、号数や発行数は千差万別ですが、創刊年は大別すると、昭和の終わり頃から平成初頭にかけての時期と平成10年以

降の時期に分けられます。

前者の創刊ラッシュについては、町中央公民館等が館報づくり講座を積極的に行っていたことが大きな要因。それに対し、後者については、IT時代の到来によるOA機器の普及が要因と思われます。近年はパソコン等により記事の作成や編集が容易になり、専門技術を持たない人でも一定水準の紙面を発行できるようになりました。そのほか、作った紙面をプリンタで簡単に印刷できるようになったことも一因と言えます。ちなみに、平成2年6月の町広報では、公民館活動が特集されています。町民5人が誌面上で座談会を行っていますが、文中には、「町内で公民館報を出しているのは15館くらい」という記述が見られます。そのことを踏まえると、かつて一度創刊はしたものの、現在は休刊している館もあるようです。

公民館報を支えるのは、 地区の方々の熱意

編集については、「編集委員」として複数の方々が関わっていると

【表】町内の自治公民館報の概要

公民館名	館報名	創刊年	号数	発行回数(年)	基本様式	カラー
宮宿	茶の間	昭和60年	73	3回	A3横 両面1枚	×
西町	にしまち	昭和59年	94	3回	A3横 両面1枚	○
栄町	さかえまち	平成11年	33	3回	B4縦 片面2枚	○
前田沢	とびら	昭和62年	153	14回	A3横 片面1枚	△
新宿	あらじゅく	昭和62年	64	3回	B4横 両面1枚	×
四ノ沢	亀の子ニュース	昭和57年	151	7回	A4縦 片面1枚	×
送橋	おくりはし	平成16年	18	1回	A3縦 両面1枚	×
杉山	すぎやま	平成20年	4	1回	A4縦 両面1枚	○
常盤	ときわ木	昭和61年	59	3回	B4横 両面1枚	×
西船渡	にしふなと	平成2年	110	4回	A4縦 片面1枚	○
大谷四	うらほう	平成元年	50	3回	A3縦 片面1枚	○
大谷五	みねだん	平成5年	31	1回	A3横2つ折り両面1枚	○
舟渡	あーがすけ	平成3年	76	4回	B4縦 両面1枚	×
栗木沢	ひだまり	平成15年	14	1回	A3縦 片面1枚	○
大暮山	みちばた	昭和63年	186	9回	B4横 片面1枚	△
大沼	浮島便り	平成21年	1	1回	A4縦 片面2枚	○

※平成21年度に「公民館報作成助成金」を申請した公民館(報)を掲載。号数は平成22年3月末日時点、発行数は平成21年度実績。カラー欄の「△」はカラー、白黒を併用 資料：教育文化課

るもあれば、ほとんど一人で手掛けているところもあるようです。もちろん大部分の編集担当者は、仕事の傍ら編集作業にあたっており、作業

自体がほぼ無報酬。「地区を盛り上げたい、地区に貢献したい…」など公民館報を支えているのは、地区の方々のそうした熱意と言えます。

公民館報インデックス

町内で現在発行されている全16公民館報を紹介します



大谷五

「みねだん」
(平成 22 年2月 26 日号)



杉山

「すぎやま」
(平成 21 年6月1日号)



栄町

「さかえまち」
(平成 22 年6月 28 日号)



栗木沢

「ひだまり」
(平成 22 年3月 31 日号)



西船渡

「にしふなと」
(平成 22 年1月 29 日号)



四ノ沢

「亀の子ニュース」
(平成 22 年9月 30 日号)



大沼

「浮島便り」
(平成 21 年5月1日号)



大谷四

「うらぼう」
(平成 22 年6月 19 日号)



送橋

「おくりはし」
(平成 22 年9月1日号)

公民館報インデックス

町内で現在発行されている全16公民館報を紹介します（つづき）



西町 「にしまち」（平成 22 年7月1日号）



宮宿 「茶の間」（平成 22 年7月 15 日号）



常盤 「ときわ木」（平成 22 年3月号）



大暮山 「みちばた」（平成 22 年6月1日号）

内容はシンプルでも 貴重な情報源

公民館報の内容はいたってシンプルなもの。基本的な構成は、館長（区長）あいさつから始まり、お祭りや運動会など行事の紹介、そして、入学、卒業、結婚、出生といった区民の動きを紹介するもの。このほか、「お知らせ」だけに内容を絞って情報を提供している紙面もあります。

これらの記事は、必ずしも「読み応えがある」あるいは「興味深い」ものではないかもしれませんが。しかし、地区内のコミュニケーションが希薄化している現代においては、とても意味のあるものです。地区の行事に参加できない方、ご近所の方と会話を交わす機会のない方、あるいはなかなか外に出歩けないお年寄りなどにとって、公民館報は貴重な情報源になっています。

なお、最近はデジタルカメラの普及もあり、写真を多く取り入れた紙面が増えているほか、カラー印刷の公民館報も8館に上っています（4頁【表】参照）。

担い手の問題、 プライバシーの問題なども…

これまで、いいことづくめで述べてきた公民館報ですが、様々な問題・課題があるのも事実です。

一つ目は担い手の問題。先ほども述べたように、館報づくりはどの地区でもほぼボランティアで行われています。こうしたことから、発行に興味を持ってはいるものの、担い手が見つからずに発行できない館も多いようです。また、現在発行している館でも後継者が見つからずに苦労している例が見られます。

二つ目はプライバシーの問題。平成15年5月の「個人情報保護に関する法律」の成立以来、「個人情報」という言葉が急速に広まりました。以前は多くの公民館報に見られていたお年寄りの「長者番付」を掲載する地区は少なくなり、婚姻・出生・転入などのおめでたい情報でも、必ずしも全員が掲載を承諾する時代ではなくなっています。公民館報とは言っても、個人のプライバシーへの配慮が必要となっているのです。



舟渡公民館
主事兼広報委員長
五十嵐義信さん

かわづら
川面衆（中沢・玉ノ井地区）の中でも、昔から「あがすけ」が多いと言われている舟渡地区。一般的に「あがすけ」とは「生意気」を意味する言葉ですが、流行を先取りしていることや、積極性・向上心があるということにも解釈できます。「あがすけ」が公民館報名になったのも、そんな二面性のある言葉に、創刊当時の編集委員がひかれたことが理由です。

当公民館報には、創刊当時から続く「舟渡の歴史散歩」というコーナーがあります。長年公民館報編集委員を務める五十嵐義一現区長が一貫して執筆を担当しています。地区内の神仏や石碑、そのほか、戦争体験や出稼ぎなどについて詳しく述べるその内容は、同じ区民としても、地域のことを知る上で、大変参考になりますね。



新宿公民館
主事兼公民館報編集委員長 今井正仁さん

編集委員を約20年、うち委員長を約10年務めています。新宿公民館報は基本的に年3回の発行。記事は5人の編集委員によって決定し、恒例行事に時節の話題を交えて紹介しています。

近年は公民館報にもプライバシーへの配慮が求められるようになってきています。編集にも気を使うことが多くなり、発行自体が難しくなっている面もありますが、区民の中には楽しみに待っていてくださる方も多数おられます。そういった方々のためにも、できる限り続けていければと思っています。

地域づくりの基本は 「地域を知る」こと 公民館報が地域をつなぐ

様々な課題もあるとはいえ、公民館報が地域づくりに役立っているのは事実です。

地域づくりの基本は「地域を知る」ことにあり、その意味で公民館報は大きな力を持っています。公民館報で地域情報を発信することは、地域情報の共有化、つまり地域をつなぐことになり、それは、地域に対する愛着や関心を高めること、地域のま

とまりを強くすることにもつながっていくのです。

町自治公民館連絡協議会（会長：宮宿公民館長）では館報の発行を奨励しており、館報を発行した公民館に対して年間1万3000円の助成金を出し、公民館報を通じた地域づくりを支援しています。今回の特集を機に、皆さんの地区でも公民館報の発行を検討してみたいかがでしょうか。

なお、創遊館内には、各地区の公民館報が常時掲示してありますので、興味のある方はぜひご覧ください。



創遊館内にある「公民館情報コーナー」

議 会

町議会 9月定例会

9月9日から15日まで7日間の日程で、町議会9月定例会が開催されました。

主な議案としては、平成22年度各種会計補正予算及び平成21年度各種会計決算など合計16議案が審議され、全議案が可決されました。

また、一般質問には4人の議員が演壇に立ち、高齢者福祉や保育園の民営化（社会福祉法人への運営委託）、特別支援学校通学者の保護者に対する負担軽減など、多岐にわたる分野について質問と主張が展開されました。

町政報告

■平成21年度一般会計決算における歳計剰余金

純剰余金3億2754万円から財政調整基金に1億6400万円、減価基金に3300万円をそれぞれ積み立て、22年度への繰越金は1億3054万円とした。

■町の財政運営は「健全」

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定に基づき、平成21年度決算における「健全化判断比率」、「資金不足比率」を算定した。

その結果、いずれの指標についても健全化基準を下回る「健全段階」で、これまで財

政の健全運営に努めてきた結果が反映された。

■デマンドタクシー

7月末現在の利用者総数は、4062人、1日平均約50人で順調に推移。また、エリア拡大に向け、平地区、川通地区、大暮山地区、大沼地区においてアンケート調査を実施し、準備を進めている。



デマンドタクシー予約センター

■元気な地域づくりのため、住民自治活動を支援

地域提案型交付金事業については、各地区から提案のあった事業内容を協働のまちづくり推進協議会で審査し、975万円の交付決定を行った。また、志藤六郎村おこし基金補助事業は5件の申請があり、運営委員会において審査の結果、5件、130万円の補助金交付決定を行った。

■町民税の当初賦課額

1億7820万円で前年比2358万円の減。長引く景気低迷による所得の伸び悩み等の要因によるものと推測。

■国民健康保険税

世帯数及び被保険者数が前

年比で96世帯、118人の減。税額では、1億7177万円となり1091万円の減。所得の減少とともに後期高齢者医療保険制度への移行によるものと分析している。

■各種保険料当初賦課額

介護保険料当初賦課額は1億2700万円で、昨年比39万円の減。被保険者数では2806人、昨年比10人の減となった。また、後期高齢者医療保険料当初賦課額は4375万円で153万円の増、被保険者数では1789人で昨年比12人の増。

■高齢者福祉の状況

9月15日の老人の日にちなんで、国および県から寿賀祝

ずいほうそうこうしょう

元宮宿小学校校長安藤八郎氏に瑞宝双光章

元宮宿小学校校長の安藤八郎氏（西町／88歳）が8月1日付で高齢者叙勲として瑞宝双光章を受章。8月31日に村山教育事務所長より伝達を受けました。

安藤氏は昭和16年山形県の教員に奉職。教員生活40年のうち、32年間町内の学校に勤務するなど、町教育の振興発展にも大きく尽力されています。



平成21年度朝日町教育委員会事務事業点検・評価報告書を公開します

教育基本法の改正により、教育委員会の事務事業について点検・評価を行い、外部の意見を付して議会への報告と住民への公表が義務付けられました。

この制度に基づき、平成21年度の教育委員会事務事業43事業中、平成20年度からの繰越明許事業6事業及び平成22年度へ繰り越した繰越明許事業1事業を除く36事業について、点検・評価を行なったところです。

この結果報告書について、朝日町のホームページ及び朝日町立図書館（創遊館内）、西部公民館、秋葉山交遊館で、10月18日から公開します。どうぞご覧ください。

■問合せ先 教育文化課（☎67-3302）

■町に住む百歳以上の方の安否を確認
当町に住む満百歳以上の方は9月1日現在で6人（男1人、女5人）。このほど全員

■農家個別所得補償
今年からスタートした米の戸別所得補償モデル事業。6月末で申請が締め切れ、当町では659戸、約388haの申請があった。今後約

品が贈呈された。今年の該当者は白寿（数え年99歳）が7人、百歳（満年齢）が2人。白寿の方には県知事より賀詞が、また、百歳を迎える方には、内閣総理大臣より賀詞と記念品が贈られ、町長らが各家庭等を訪問し伝達した。

■猛暑がりんごの生育に影響
7月から8月にかけて気温が高く推移したことから、果樹のりんごを中心に小玉傾向にあり、日焼け果の発生が多くなっている。つがるについては、8月21日に初売りを行なったが、どこの産地も着色が遅れており、価格的には例年になく高めに推移している。

4800万円の交付金が交付される予定。

■宮宿小学校体育館を改修

設計業務の入札を7月21日に行い、山形市の業者が落札した。改築内容については、地元関係者による検討委員会を立ち上げ、基本計画案を提示し、意見を伺いながら進めている。（今後地元説明会も開催。詳細は来月号で紹介）



老朽化が進む宮宿小体育館

■町民プール利用状況

今年度は7月17日から8月22日までの37日間開放。前年より1週間延長した。期間中の利用者数は、昨年比23%増の2066人（中学生以下1532人、高校生以上534人）。極めて暑い夏だったことと利用期間の延長が利用者増の要因と推測。

連載企画

なりわい 業を創る

「都市と農山村が互いの生活を支え合う関係」の構築を掲げ、仙台圏との交流を進める「朝日町産業創造推進機構」の取り組みを連載で紹介し



厚労省委託「地域雇用創造実現事業」に採択

新たに起業しています。

産業力を高める施策の一つとして朝日町は、地元の素材を活用した内発型産業の育成を図る起業支援に取り組んでいます。その主な財源となっているのが、厚生労働省の委託事業である「地域雇用創造推進事業（パッケージ事業）」です。平成21年度から平成23年度までの3カ年事業で、総事業費は9600万円。事業費の大半が起業家を育てる人材養成のための研修に伴う講師謝礼で、健康工房（イフエン（食肉加工）や一心堂（りんご菓子）、ママ・ピーンズ（ジャム、コンポート）が前パッケージ事業で

このたび、新たに「地域雇用創造実現事業」に手を挙げ申請したところ、厚労省から9月13日付けで正式に採択の通知をいただきました。平成24年度までの3カ年事業で、総事業費は7300万円。内発型新産業の育成により文字通り、雇用の場を強力に創出させるための事業で、新商品開発のための専門チーム形成に伴う人件費のほか、開発に必用な資材費などが見込まれています。今回の事業採択により、起業の実現に拍車がかかればと願っているところです。

「えっ？来年度からあさひ保育園が民営化？」 「民営化とは、社会福祉法人に運営を委託することです」

なぜ今？民営化の必要性

今年4月のあさひ保育園開園以来、0歳児保育や土曜日保育、一時保育の実施などにより、町の保育環境は着実に向上しています。

保育や子育てを取り巻く環境が大きく変化しています。町では多様化する保育ニーズへの迅速な対応と子育て世代への支援強化を図るため、民間活力を生かした、より良い保育園運営を目指しています。今回はあさひ保育園民営化計画の概要についてお知らせします。

しかし、この半年間だけを見ても、保育ニーズは日を追うごとに高くなっています。特に、3歳未満児保育については、4月当初、35人の定員に対して30人でスタートしましたが、10月1日現在では42人に達しています（一時的に利用している方も含む）。3歳未満児については、家庭での保育を原則としています。が、共働き家庭の増加や核家族化により、今後も希望者が増える予想されます。この年代は3歳以上の園

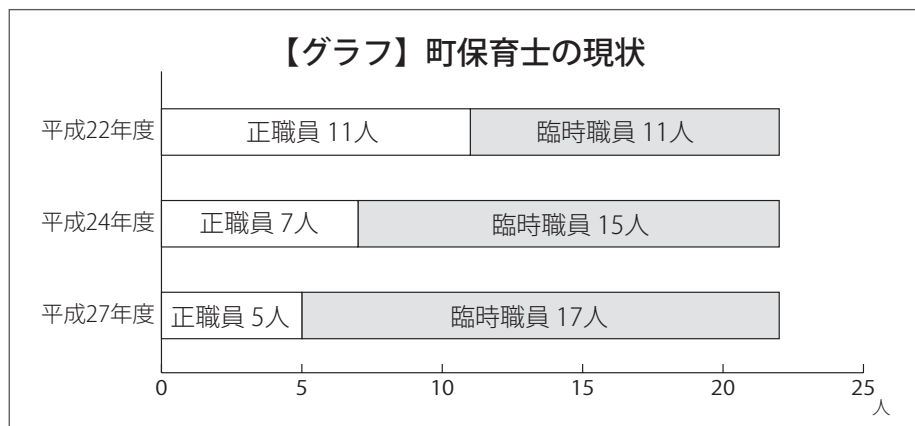
多様な保育ニーズに対応

児に比べて多くの保育士が必要となり、保育士の再配置が求められますが、現体制では柔軟な対応が難しい状況となっています。

現在の勤務形態は正職員である公務員の就業規程を基本としていることから、休日保育など新たなサービスを行うには限界があります。臨時職員は法的に勤務時間に制約があり、雇用も1年単位。年齢や勤務年数に関係なく、同一賃金の支給のため、身分は不安定と言わざるを得ません。

今後は正職員の退職に伴って臨時職員の割合がさらに増えます（グラフ）。どんな仕事にも共通することですが、業務の多様化・複雑化が進む半面、待遇面が変わらないという状況では、仕事に対する意欲が高ま

【グラフ】町保育士の現状



皆さんの不安を解消 主な疑問にお答えします

▼民営化で変わるところは？

町の関わりや保育料、入園手続など園児や保護者にとって今の保育園と大きく変わりません。入所の決定や保育料の徴収などもこれまでどおり町が行います。

▼子育て支援センターはどうなるの？

今回の計画は保育園のほか、子育て支援センターと放課後児童クラブも併せて社会福祉法人へ運営の委託を予定しています。

▼職員の配置は？

保育の継続性や園児・保護者との信頼関係を考慮し、新たな社会福祉法人に対して町職員の保育士を派遣します（3年から5年の予定）。

それ以外の職員は委託先での公募による職員採用となり、現行の保育士数を基本に、福祉法人の就業規則に基づいた職員体制となります。

▼社会福祉法人と町の関わり方は？

運営が社会福祉法人に代わっても、保育方針はあくまで町が定めるものに沿うこととなります。運営が社会福祉法人になるとは言え、保育園運営の最終責任は町にありますので、定期的に保育内容を確認しながら連携を図ります。



◆柔軟な運営により、

りません。結果として、保育の質の低下が懸念されてしまいます。

このようなことから、早急に臨時職員の待遇面や身分などを確立し、保育ニーズの多様化に対応する必要があることから、平成23年度からの民営化に向け準備を進めています。

「民営化」とは、社会福祉法人に対する運営の委託

保育園については「指定管理者制度」を利用した委託を計画しています。

この「指定管理者制度」とは、公的施設の管理に民間の柔軟性やアイ

デアを取り入れることにより、サービスの向上と効率的な管理運営を行うことを目的に創設された制度です。公的施設の民営化とは、一般的に施設の管理運営を社会福祉法人や企業、NPO法人等に委託することを言いますが、町は今後新たに設立する社会福祉法人（※）を指定する計画です。

（※）社会福祉事業を行うことを目的に設立する法人で、公共性が高く、営利を目的としない法人のことを言います。

民営化は平成23年4月を予定 これからの進め方

今後は保護者の皆さんをはじめ、町民の皆様からご意見をお聞きしながら進める予定です。

社会福祉法人の内容など、具体的な計画がまとまり次第、広報誌等を通じてお知らせします。

■問合せ 健康福祉課子育て支援係

☎ 67・2132

まちの話題



「☐ ホームページに写真」の表記があるものについては、町ホームページの「まちの写真館」コーナーで、多くの写真を紹介しています。ぜひご覧ください。

第31回朝日町ワインまつり(9月23日／創遊館芝生広場)



2年越しの開催に1,100人が酔いしれる

9月19日、町を代表する秋のイベント「ワインまつり」が創遊館芝生広場で開催され、県内外からのワイ

ンファン約1,100人でにぎわいました。

この日用意されたのは、新酒の

朝日町ワイン赤、白、ロゼ、そしてぶどうジュースなど1,300リットル。昨年は雨天で中止を余儀なくされただけに、開催を心待ちにしていた方も多く、2年越しの参加者は牛肉のバーベキューなどを楽しみながら飲み放題でワインを堪能。そのほか「ぶどう踏み競争」や抽選会などのアトラクションも行われ、秋の一日を満喫しました。

山形市から家族7人で訪れた男性は「2年前に初めて来て以来、2回目の参加です。おいしいワインを飲み放題で味わえるのがうれしいですね。来年もぜひ来たいです」と上機嫌で話していました。

☐ ホームページに写真

第3回和合りんごまつり(10月3日／旧和合小学校)



りんごのほか、和合の「地域力」を発信

10月3日、旧和合小学校で和合りんごまつりが開催され、2,000人を超える来場者でにぎわいました。

このまつりは、一昨年(2019年)の3月をもって地元の和合小学校が閉校したのを機に、同年10月、地区の住民が

主体となって初めて開催したものです。小学校の閉校を嘆くばかりではなく、将来にわたり地区が一体となれるようにと企画されたものですが、今や地区の住民が一堂に会する年に一回のイベントとして、貴重な役割も果たしています。

町を代表するりんご産地にちなんで、りんごの直売コーナーやジャムなどの加工品販売コーナーが設けられたほか、りんごの皮むき競争やりんご釣りなどのアトラクションも開催。りんごの産地であることはもちろん、和合地区が持つ「地域力」を多くの方々に発信しました。

第27回アップル町民駅伝競走大会(10月10日／町内一円)

りんごがたわわに実る朝日町の秋の風物詩「町民アップル駅伝競走大会」が10月10日開催され、出場13チームが町内25キロ、11区間をタスキでつなぎました。

今年のレースは、まず「中沢・玉ノ井」が序盤の混戦から抜け出し、3区でトップに立つと、6区まで先頭をキープ。しかしその後は優勝候補の「宮宿A」と「大谷風」が本領を発揮。7区で中沢・玉ノ井を抜き去ると、その後は両チームによる一進一退のレースに発展。最後は3秒差でタスキを受けた「宮宿A」のアンカーが「大谷風」を逆転し、3年ぶり3回目の優勝を果たしました。

今年の大会には緑町が初めて、太郎が4年ぶりに出場。参加チームが増えたせいもあり、沿道から送られる声援も一際大きい様子でした。

[☞ ホームページに写真](#)



緑町が初、太郎が4年ぶり出場 優勝は宮宿A

【総合成績】○数字は順位 ①宮宿A ②大谷風 ③中沢・玉ノ井 ④チーム前田沢 2010 ⑤上郷 ⑥和合水上

【区間賞】1区…鈴木貴大(大谷風)、2区…鈴木明人(チーム前田沢 2010)、3区…五十嵐大義(中沢・玉ノ井)、

4区…布施秀次(宮宿A) 5区…田川翔平(三中)、6区…長岡昂司(太郎)、7区…桜井豊(大谷風) 8区…白田恵里華(大谷風)、9区…志藤洋一(中沢・玉ノ井)、10区…白田信幸(大谷神)、11区…菅井拓人(宮宿A)

朝日中2年生が町の観光をPR(10月8日／山形駅周辺)



道行く人にりんごやワインをPR

朝日中学校の2年生73人が10月8日、山形駅周辺で町の観光PR活動を行いました。

これは同校の総合学習の一環で行われたもので、初めての取り組み。町の良さをいろいろな人に伝えるこ

とで故郷の魅力を再発見し、郷土愛を育むこと等を目的としています。

町の観光イベント用のハッピを身にまとった生徒たちは山形駅周辺で4カ所に分かれ、町をPR。旬のりんご^{しゅうよう}「秋陽」と町の観光パンフレットが入った袋を道行く人に手渡しては、りんごやワインなど町の魅力を丁寧に説明していました。

鈴木翔子さん(大谷七)は、「恥ずかしさを振り切って大きな声でPRしたら、多くの人が立ち止まってくれたり、興味を示してくれたりして、うれしく思いました。今日のために、町のことをたくさん調べて、自分自身も勉強になりました」と成果を語ってくれました。

[☞ ホームページに写真](#)

朝日中3年生親子行事 ぶどう収穫作業 (10月9日／朝日町ワイン)



成人式での再会が楽しみ

10月9日、朝日中3年生の学年行事として、ぶどうの収穫作業が朝日町ワイン「ワイン城」内の園地で行われ、65組の親子が参加しました。

これは、町の代表的な特産品である朝日町ワインを身近に感じることで、郷土に対する理解と愛着を深めていただこうと、平成14年度から毎年行われているもの。収穫されたのは「メルロー」という赤ワインの原料となる品種で、このぶどうから造られるワインは6年後の成人式のときに、はじめて口にするお酒として贈られることになっています。

この日は工場見学会や芋煮会も開催。「ちょっぴり大人」な中学3年生ということもあり、親子での作業を恥ずかしがる姿も見られましたが、郷土の理解を深めた貴重な一日となりました。

シナノスイートもぎ取り体験会 (10月6日／能中地内)



園児が食べて安全・安心をPR

町の特産品であるりんごの中でも、「ふじ」に次ぐ主力品種として近年ますます注目を浴びているのが「シナノスイート」。そのもぎ取り体験会が10月6日、能中地内にある志藤清市郎さん（川通）の園地で行われ、あさひ保育園の年長児49人が参加しました。

これは、りんごをはじめとした農産物を全国の消費者のもとへ届けるにあたり、農薬等の使用が適正で、安全・安心な品質であることを証明するために行われているもので、「さがえ西村山農産物安全・安心対策推進会議（会長：佐藤洋樹寒河江市長）」が主催しています。

会では、園児たちが一人2個のりんごを収穫。その後もぎたてのものを口いっぱいにはおぼることで、安全・安心な品質をPRするとともに、実りの秋を楽しんでいました。

[☞ホームページに写真](#)



町建設総合組合「感謝ボランティア」(10月11日／町内各所)

高齢者世帯に対し熟練の技能を無償で提供

75歳以上の高齢者世帯に対して、各種職人の技能を無償で提供する町建設総合組合（安藤政喜組合長／152人）の「感謝ボランティア」が10月11日行われました。

これは、日頃仕事を受けている町民への感謝と、地元工務店や職人のPRなどを目的に、同組合が毎年行っているもの。4年目の今年は、建具の修繕や庭木の手入れ、家屋の

補修など、72世帯から合計106件の依頼を受け、熟練の技能を持った組合員34人が作業にあたりました。

安藤組合長は「家屋の補修等に関しては、相談先がわからずに困っているお年寄りの方も多いようです。最近は住宅に関する詐欺なども耳にしますが、そうしたことを防ぐためにも、私たちが役に立てれば幸いです」と語っていました。

金婚祝賀会 (10月5日／Asahi自然観)



結婚 50 年の節目を祝う

結婚50年の節目を夫婦ともに迎えられた方々を対象にした金婚祝賀会が10月5日Asahi自然観で開催されました。

今年金婚を迎えるのは、いわゆる高度経済成長の始まりにあたる昭和36年に結婚したご夫妻。対象40組中34組が出席し、節目の日を祝いました。

会でははじめに、主催者である朝日町社会福祉協議会長の鈴木浩幸町長があいさつを述べたあと、金婚者を代表して長岡壽一さん・昭さんご夫妻（常盤）に賀詞を贈呈。壽一さんは「この50年は山あり、谷ありでしたが、今振り返ればまさにあっという間でした。苦楽を共にした昔話を語りながら、今後も仲良く暮らしていきたいと思います」と感慨深げに語っていました。

楽笑楽生講座 新聞紙でエコバッグ作り

(9月26日／西部公民館)



果物や野菜のおすそ分けにいかが

西部公民館が主催する「楽笑楽生講座」が9月26日行われ、12人が新聞紙のエコバッグ作りを楽しみました。

新聞の大きさや作り方のよって様々な形ができるエコバッグですが、この日挑戦したのは、新聞紙丸ごと1枚を使った幅約30cm、高さ約20cmのもの（写真）。中には約5kgまで荷物を入れることができ、参加者の間では「野菜や果物などをちょっとおすそわけするときにいいですね」と使い方のアイデアに盛り上がっていました。

指先を使う作業として、脳の活性化にもつながることから、元気クラブ、長寿クラブの活動にもおすすめ。興味をお持ちの方は西部公民館（☎67-2207）までお問い合わせください。 [☞ ホームページに写真](#)

人権啓発・心のふれあいコンサート(9月26日／創遊館)

創遊館オープン10周年記念事業

9月26日「人権啓発・心のふれあいコンサート」が創遊館を会場に開催されました。

これは、人権啓発活動の一環として、「山形人権啓発活動ネットワーク協議会」及び町が主催したもの。生まれつき左耳に聴覚障害を持ちながら、日本唯一のジャズチェロ奏者として国内外で活躍する吉川よしひろ氏（鶴岡市出身）が「おくりび

と」のテーマ曲や「最上川舟唄」などで心揺さぶるような演奏を披露。また、町出身のオペラ歌手今井倭子さん（前田沢）や、障がい者とのふれあいを大切にしながら活動続ける町内のフォークコーラスグループ「あめっかぜ」も出演し、約400人が様々なジャンルの音楽を楽しみました。

[☞ ホームページに写真](#)



「情報交流推進員」に佐藤恒平さんを委嘱

町の情報発信をサポート

少子高齢化や農業の衰退など、地方を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、「都市と地方の格差」が依然として大きな問題となっています。

そんな中、疲弊する地方に少しでも活力を与えようと、総務省が昨年度に創設したのが「地域おこし協力隊」制度。その内容は人口減少や高齢化の著しい地方の市町村に、都市部から様々な技能や熱意を持つ人材を誘致し、地域力の維持・強化を図るもので、隊員の経費は国が負担することとなっています。

このほど朝日町では、本制度を活用し、10月1日付で佐藤恒平さん（26歳／神奈川県大和市より移住）を「情報交流推進員」に委嘱。インターネット（以下「ネット」）やブログといった情報ツールが日々進化を遂げる中で、「情報発信」機能の強化を図りました。

佐藤さんと言えば、ご存知の方も多いと思いますが、2年前、ウサギの着ぐるみを身にまとい、町内の様々なイベントを盛り上げてくれた青年。当時は「ネット」による地域振興や特産品のPR」を研究する東北芸術工科大学の大学院生でし

たが、卒業研究として町ホームページ内に立ちあげた「桃色ウサヒのあさひまち探検（※）」は、いまだに多くの方々から愛される人気コーナーです。

ネットはもちろん、グラフィックから工芸、映像まで何でも手掛ける佐藤さんは、既に町民として大町地内に住居を構えています。「デザイン」と「地域振興」を結びつける佐藤さんの今後の活躍に注目です。

※「ウサヒ」とは、「ウサギ」と「アサヒ」を組み合わせた言葉。コーナーでは、このウサヒが町のイメージキャラクターになるべく、町内の見どころや特産品について勉強している様子が楽しく描かれています。「桃色ウサヒ」で検索してご覧ください。



町長より委嘱状の交付を受ける
佐藤恒平さん（10月1日／町長室）

「桃色ウサヒ」が帰ってきたよ！

「魅力あるデザインやwebコンテンツで地域おこしを手伝います」 佐藤恒平



今★輝いて

する予定です。

ウサギの着ぐるみはそうした情報発信の一つの手段として用いているものです。キャラクターを通して取材内容を楽しく紹介することで、多くの方々がホームページに興味を持ち、閲覧者アップにもつながります。また日頃見慣れた風景もウサギが紹介することで、興味深い一面を見せてくれることでしょう。今後いろいろな場所にウサギの着ぐるみを着て出没すると思いますが、その際は快く取材にに応じていただくとともに、末永く「桃色ウサヒ」を可愛がっていただければ幸いです。

「地域おこし協力隊」の仕事は、市町村により様々です。10月1日現在、山形県内でこの制度を活用しているのは村山市、尾花沢市、そして最上町の3市町村で、いずれも農業が中心です。村山市の隊員が働く「ガールズ農場」は一度耳にしたことがある方も多いのではないのでしょうか。

その中で、今回私に課せられた仕事は、町のPRや特産品の情報発信にかかわるもの。ポスターやチラシを作ったり、イベントに出掛けたり

私の故郷は福島県大沼郡金山町。県の西端に位置する人口約2600人の町ですが、私はどんな小さな町でも工夫次第で魅力ある町になれると思っています。まだまだ未熟者ではありますが、私の持つ技術を生かし、朝日町の振興・発展に少しでも貢献できればと思います。



教訓: 天気予報の大ハズレにも備えよ!

広報委員リレーエッセー

私的あさひまち生活

町広報委員が仕事や趣味、家庭などを通じて垣間見える朝日町の姿や日常の思いを自由に綴ります

山々が色づき、林檎の赤が目に見え込んでくる季節になった。食卓にもキノコや菊やあけびが並び、体中が秋に染まっていく。

朝日町では、町の景色も空気の匂いも、見かける虫もおいしい食べ物も季節で違う。我が家の子どもたちも、季節ごとに違う遊びを見つけ出し遊んでいる。カブトムシがいなくなり、今はイナゴ捕まえやどんぐり拾いに夢中だ。冬になれば、雪や氷柱が遊び道具だらう。見て、触って、嗅いで、全身で四季を感じることに

心のアルバム

楽しさを満喫している。この子たちの心のアルバムは、都会では出せない色の濃さで綴られているに違いない。

この先、子ども達がどんな世界に羽ばたくとしても、大人になって心のアルバムをめくるとき、色あせないカラフルな思い出は「生きることの楽しさ」を思い出させてくれると思う。朝日町の濃い四季を感じながら育ったことは、きっとこの子たちの財産になる。どうか大切に、新しいページを重ねて欲しい。(秋桜)



平成 22 年度西村山中学校新人 総合体育大会 (9 月 24 日～ 26 日)

★印は県南大会出場

【団体戦】

- 1 位 バスケットボール女子★
剣道男子★、剣道女子★
- 3 位 バスケットボール男子
卓球女子

【個人戦】

- 1 位 柔道男子 50kg級 海野静哉★
剣道男子 菅井蓮★
- 2 位 柔道男子 55kg級 堀洋平★
剣道男子 志藤慶太★
剣道女子 菊地咲良★
- 3 位 ソフトテニス 樋口諒・田川翔平組
剣道女子 鈴木翔子★
- 5 位 卓球女子 阿部翔子★
剣道男子 堀 将人★
剣道女子 阿部真琴★

各種大会の成績

■第 36 回朝日町民グラウンドゴルフ大会 (9 月 11 日/西部公民館見晴らしの丘/参加者 108 人) ○数字は順位

【男子の部】①阿部康夫 (55 打、大谷五) ②阿部秋治 (大谷六) ③佐藤昭吉 (本町) 【女子の部】①村山クニヨ (58 打、太郎一) ②阿部ア

イ子 (新宿) ③長岡ちはる (太郎一) 【総合】①阿部康夫②阿部秋治③佐藤昭吉③村山クニヨ

■平成 22 年度村山地区社会人ソフトボール大会 (9 月 20 日/大江町) 3 位 大谷風チーム

観光協会だより

旅のココロ

商店街の「お宝」を 展示します

あさひ旅のココロ館



宮宿商店街に「あさひ旅のココロ館」がオープンしてまもなく3カ月。ご近所の宮宿商店街のお店にうかがったり、お店の方々と話す機会も増えました。

そんな日々を送るうちにわかったのが、それぞれのお店に珍しい品々が眠っていること。いずれもお店の歴史を物語る品々で、見るだけでも楽しいことから、このほど旅のココロ館のギャラリーで紹介していくことになりました。

初回として今月20日から展示するのが、永勝堂さんと玉屋菓子店さんのお宝。明治時代から使われている祝菓子の型や戦時中の配給制度を偲ばせる看板など、なつかしく興味深い品々が多数です。是非、足をお運び下さい。

亀井秀介（町観光協会観光振興推進員）

■問合せ先 あさひ旅のココロ館

☎67-2134

秋の一日

杉山区民グラウンドゴルフ・輪投げ大会

町長歳時記
(59)

とても心なごむ、温かな心もちにしてくれたグラウンドゴルフ大会でありました。それは二十九回を数える杉山区民グラウンドゴルフ・輪投げ大会。十月十二日、旧杉山分校跡グラウンドの杉山公園で行われました。

前夜はあいにくの雨。心配された天気も地区の方々の願いが届いたせいか、秋晴れの青空の下での大会となりました。二十九戸の世帯数を大きく上回る参加者が一堂に勢ぞろいした公園は、それだけで賑わいあふれる満場の光景に見えました。

開会行事の間、決して広いとは言えないこの公園に、どうコースを設定しどのようにゲームを行うのだろうとしばしば思案をしておりましたが、スタートと同時にそんな心配などどこかに吹っ飛んでしまいました。コースは公園を縦横無尽にあちちに行ったりこつち

に行ったり対角線上に張り巡らされ、おじいちゃんもおばちゃんも若い人もお父さんもお母さんも、あちちに行ったりこつちに来たり、赤青黄色オレンジ緑と様々な色のボールが地面の至る所に入り乱れ、時にはぶつかったり跳ねたりしながらも、絶えず笑い声があちちこちらに響き渡り、とてもおおらかで和気あいあいな、心なごむ温かなグラウンドゴルフ大会でありました。

「ああ、いいなあ。穏やかな秋の一日仕事を忘れ、地区の人たちみんなが集まり、ボールを打ったり笑ったり、そしてみんなで助け合って生きて行く。これが私たちの町の姿なんだなあ」と、改めて感慨深く思ったところでありました。

朝日町長 鈴木浩幸



■平成22年(2010年)
9月1日～9月30日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
宇津野 細 谷	篤 ^{あつ} 輝 ^き	男	広行・智美
真 中 安 藤	実 ^み 音 ^お	女	尚之・久美子



おしあわせに

長 岡 守 (常 盤)	大 泉 静 香 (大江町)
鈴 木 淳 (元 町)	石 川 友 見 (中山町)
長 岡 善 宗 (常 盤)	高 橋 美 穂 (山形市)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
栗木沢	鈴 木 正 治	米 子
大谷二	渡 邊 盛 夫	裕 一
大 沼	小 林 貞三郎	貞一郎
宇津野	渡 邊 惣 七	好 子
沼 向	菅 井 よしゑ	伸太郎
宇津野	柴 田 えい子	昌 巳

掲載を希望しない方は
届け出の際にお申し付けください

人口と世帯数

●平成22年9月30日現在

人 口	8, 0 9 2 人 (- 1 1)
男	4, 0 0 9 人 (- 5)
女	4, 0 8 3 人 (- 6)
世帯数	2, 5 2 2 世帯(- 2)

()内 前月比

----- 9 月中の異動 -----

出 生	2 人	転 入	6 人
死 亡	6 人	転 出	1 3 人

■オーナーワイン収穫感謝祭



一口15,000円(赤ワインの場合)でワイン6本分のオーナーになることができる「ぶどうの木オーナー制度」の収穫祭が10月2日ワイン城で開催されました。

320人の参加者は、白ワインの原料となる「シャルドネ」を収穫し、ワインの生産工程を見学。その後、芋煮やバーベキューで仕込みたてのワインを楽しみました。

■第5回五百川峡谷クリーンアップ大作戦



9月26日、「第5回五百川峡谷クリーンアップ大作戦」が開催され、カヌー愛好者らが雪谷から栗木沢カヌーランド間の最上川河畔のゴミ拾いを行いました。

約30人の参加者はペットボトルや缶、瓶から発泡スチロール、さらには建具まで軽トラック2台分のゴミを集め、日ごろお世話になっている川へ恩返ししました。

■朝日町民登山



10月2日から3日にかけて、毎年恒例の朝日町民登山が実施され、21人が参加しました。

町のシンボル大朝日岳を目指す一行は2日朝6時に白滝口から登頂を開始。雲一つない晴天の中、確実に歩を進め、午後1頃に大朝日岳山頂に到着。山頂からは佐渡島まで見ることができ、参加者は満面の表情を浮かべていました。

スモモ新品種「サンルージュ」をよろしく



「サンルージュ」は大江町の農家が開発した新品種の晩生種スモモで、やや大玉で糖度が高く、紅色の外皮が特徴。冷蔵すれば一カ月以上保存できるなど、今後可能性を秘めており、朝日町内でも生産量が増えています。

10月7日にはさがえ西村山すもも部会(渡辺誠一部会長)から、過去にふるさと納税をしていただいた方へと、町に10個入りの贈答用セット6箱を寄贈としていただきました。皆さんも今後機会があればぜひご賞味ください。



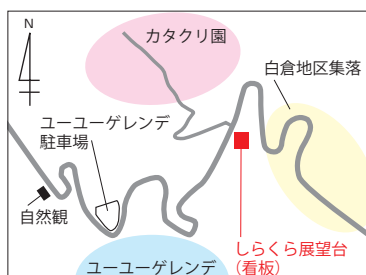
「しらくら展望台」からの眺望

白倉地区ではこのほど地区内のビューポイントに丸太製のベンチと手づくりの案内看板を設置し、展望台として整備しました。

この展望台は、Asahi自然観から町道白倉線を立木方面へ向かって、車で約5分の場所に位置。晴れた日には周辺の山々はもちろん、奥羽山脈まで見渡することができることから、この景色を多くの方々に楽しんでもらおうと、同地区が自然観と協力して整備したものです。

阿部馨白倉区長は「この展望台は、高齢化が進む中にあっても地区を盛り上げようと、区民と自然観が協力して作ったものです。紅葉が見ごろを迎えるこれからの季節は特におすすめです。ぜひおいでください」と話していました。

なお、この看板は一部付け替えが可能。通常は自然観を案内している部分が、カタクリが咲き誇る5月上旬には、一時的に地区内のカタクリ園を案内する看板に衣替えし、お客様を迎える予定です。



カタクリの花

お知らせ

マーティ先生のハロウィンパーティー 参加する人は必ず仮装してきてね

▼日時 11月6日(土) 午後2時～ ▼場所 開発センターホール
▼定員 100人 ▼チケット 300円 10月20日以降の平日、午前8時30分から午後5時までの間、創遊館内教育委員会事務室で取扱い。
▼問合せ先 教育委員会教育文化課 ☎67-3302



春夏秋冬 編集後記

「まちの写真館」に見る情報発信の重要性

この1カ月間で数人の方から「まちの写真館をいつも楽しみに見てます」といったご意見をいただきました。

「まちの写真館」とは、町ホームページ内にある、町の様々な出来事を紹介しているコーナー。多くの写真や動画を紹介していることから、誰でも気軽に楽しめる内容になっています。

10月8日には、朝日中2年生が初の取り組みとして、山形駅周辺で町の観光PR活動を行いました。

た(13頁に記事)。取材させていただいたところ、この取り組みにもホームページからの情報が活用されていることがわかり、生徒が作った案内パンフレットの最後には、「くわしくは朝日町役場のホームページをご覧ください。『みんなの写真館』がおすすめです」との文言がありました(苦笑)。

多くの方々から見えていただけることに感謝しつつ、情報発信の重要性を改めて感じたところです。

佐久間 淳